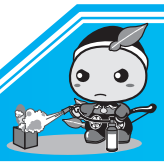

日ごろの近所付き合いが身を守る!!

育てよう地域の力「自主防災組織」

住み続けたい・また住みたいと思える団地をめざして

角木団地地域安全防災・防犯会

角木団地地域安全防災・防犯会は平成18年に発足しました。主な活動は、毎月行うホース格納庫の点検を兼ねた地域内パトロールと、年に1回行う救急救命講習や初期消火訓練です。

角木団地の大きな特徴は、防災活動に限らず、イベントなどに団地内の住民が全員で参加できるように努力している点です。そのことについて北見勢津子会長は「角木団地では、普段から住民同士の声掛けや呼びかけを積極的に行うようにしています。初めは、なかなか話せなかった人も、繰り返し声をかけていくうちに、返してくれるようになるんです」と笑顔で話してくれました。人との繋がりを断たない、孤立する住民をつくらないという、団地に住む人たちの意識の高さを感じました。

また、角木団地では、防災組織の活動だけでなく、自治会活動全般で気を付けていることがあります。それは『無理をしない・無理をさせない。』ということです。自治会で活動を行う時、参加できる人とできない人に分かれてしまいます。そのような場合、参加できない人に決して無理強いをしないといいます。「団地は、住んでいる皆さんが助け合っていかないといけないと思います。そのためには、住む人たちが長く付き合っていける環境づくりが大切だと考えます。自主防災活動のみならず、自治会の役員など無理をしない範囲で協力してもらうように心がけています。住んでいる人に『やめたい』、『引っ越したい』という言葉を言わせてはいけないと考えています」と北見会長は話します。

角木団地は、今後も住み続けたいと思ってもらえる団地をめざして活動を進めていくそうです。

毎月行われている地域内防犯パトロールの様子

毛呂山歴史散歩

文化財シリーズ242

毛呂山町の古代寺院 ～丘陵の仏教文化～

毛呂山町の古代仏教文化の象徴的な文化財として、滝ノ入の桂木寺木造伝釈迦如来坐像が良く知られています。毛呂山町西部を含む外秩父の山筋には、平安時代に造られた古像が点在しています。

毛呂山町では、優美な姿の木彫仏よりさらに古い、古代寺院と目される遺跡が発見されています。

毛呂山町南部、毛呂山丘陵上の葛貫字大寺で発見された大寺廃寺跡は、昭和59年度に確認調査が行われ、軒先に用いる軒丸瓦や平瓦、灰色を帯びた硬い須恵器の坏（飲食用の浅い器）が出土しました。大寺地区は、昭和14年に毛呂村と山根村が合併する際、旧高麗川村分にも分割編入されたため、遺跡の主要部分は日高市にあります。日高市側の調査で礎石建物跡を含む3棟の遺構が発見されています。遺物の特徴から、8世紀後半ごろには、礎石を用いた建物が複数立っていたことが明らかとなりました。

なお、毛呂山町分では、嘉吉3年（1443）銘の板碑や中世のカワラケと呼ばれる軟質の土器が出土しており、古代だけでなく中世にも墓地が形成されていたと考えられています。

一方毛呂山町北東部、越辺川を南に臨む岩殿丘陵末端の朝日山に、西戸丸山遺跡があります。

西戸丸山遺跡では、かつて古代の軒丸瓦の破片が採集されました。この採集瓦は、さいたま市桜区の大久保領家廃寺跡で出土した瓦と同じ型を用いて作られたことがわかっていますが、瓦を生産した職人集団や発注主である豪族などについては、謎に包まれています。

西戸丸山遺跡の西側に隣接する目白台地区の金谷遺跡からは、仏教関連の遺物とされる鉄鉢形須恵器が出土しており、丘陵上の集落内にも、仏教が広がりをみせていたことがうかがえます。

大寺廃寺の遺構